

# 大船渡市立越喜来小学校

2014年 8月 5日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

## 【文献】

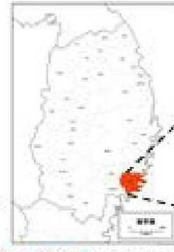
- (1) 「saveMLAK」博物館・美術館・図書館・文書館、公民館の被災・救援情報 <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- (2) 平田直、他『巨大地震・巨大津波 -東日本大震災の検証-』朝倉書店 2011年
- (3) <東日本大震災>児童の命救った非常階段 大船渡・越喜来小 毎日新聞 2011年3月24日(木)配信記事

## 【場所】

越喜来湾から200mの位置にあり、近くに浦浜川が流れている。

住所:岩手県大船渡市三陸町越喜来  
沖田35

※現在校舎は取り壊され、甫緒小学校に併設した後、崎浜小学校、甫緒小学校と統合した。



赤い範囲:大船渡市



赤い範囲:三陸町越喜来



緑の範囲:越喜来小学校

## 【東日本大震災による被害】

津波により校舎が全壊。(1)

## 【震災当日の様子】

岩手県大船渡市の海沿いにある越喜来小学校は、2010年12月に津波から逃れる時間を短縮する非常通路をつくっていた。津波に襲われた児童はこの通路を通過して避難し助かった。

海岸から約200m内陸にある越喜来小学校の3階建の校舎は津波に襲われ大きな被害を受けている。校舎の道路側は高さ5mほどの崖で、従来はいったん1階から校舎外に出て約70mの坂を上って崖の上に行き、さらに高台の三陸鉄道南リアス線三陸駅に向かうことになっていた。400万をかけて完成した校舎2階と崖の上の道路を直接つなぐ津波避難用の非常通路は、「校舎内の児童がいったん1階に降りていたら時間もかかるし低い場所を通るので危ない。2階から直接道路に出られるようにすべきだ」と考えた市議の提案だった。

計71人の児童が地震直後にこの非常通路を利用して崖の上に出て、ただちに高台に向かった。その後押し寄せた津波で、長さ約10m、幅約1.5mの非常通路は壊され、がれきに覆い尽くされた。(2)

また、非常通路とは別に校舎裏に設置された高台へ上がるための石階段も避難に使用している。(3)

## 【調査して言えること】

学校の敷地は6mほどの標高しかなく海や川のすぐ近くにあり、津波から避難するためには迅速な行動が必要とされる場所であった。予め決められていた避難場所である三陸駅(標高約24m)へ行くためには一旦川に近づく経路を通ることになり、地震の後に通るには危険な経路であった。そのことから、高台への非常通路や石階段が有効なものであったことが分かった。



非常通路のあった場所(2014/3/17撮影)



非常通路と高台への階段  
(2011年9月のGoogleストリートビューより)



越喜来小学校



越喜来高

越喜来小学校と海の位置関係(2014/3/17撮影)

※2枚の写真を中央でつなげている